

ネイチャー高知

No. 63 2024年7月31日発行

自然観察指導員講習会が次のとおり開催されます。

会場 高知市高川 高知市工石山青少年の家

定員 40名

対象 満18歳以上の方

2日間の全プログラムを受講できる方

自然保護教育の必要性を認識し、自然観察活動の推進に意欲があり、できるところから実践意欲のある方、または現在活動されている方

日程 2024年10月12日(土曜日)13日(日曜日)

費用 25,000円 (日本自然保護協会会員は20,000円)

昼食2+夕食1=3食、受講料、初年度登録料、日本自然保護協会会費、テキスト代を含む【会場に宿泊(1泊・朝食付き)を希望の方は、追加1,250円で会場に宿泊いただけます】

プログラム概要

1日目 9:30-18:00

野外実習1 自然観察の視点 講義1 自然の保護 講義2 自然の観察

2日目 9:00-16:30

野外実習2 自然観察の素材 野外実習3 自然観察の企画

野外実習4 自然観察会の開催

講師 植原 彰(うへはら あきら) NACS-J 理事/乙女高原ファンクラブ代表世話人

野本 康太(のもと こうた) 伊丹昆虫館学芸員(副館長)/自然観察指導員兵庫連絡会事務局/森林インストラクター

浅岡 永理(あさおか えり) NACS-J 事務局

共催 日本自然保護協会 高知県自然観察指導員連絡会

申込方法 すべて専用WEBページからの申し込みになります。

2024年度 自然観察指導員講習会 開催予定一覧

<https://www.nacsj.or.jp/educate/2024/02/8761/>から、開催地高知県の【詳細はこちら】へ進み、さらに【参加申込フォーム】から申し込みください。

※ 上記は予定ですので、変更になることがあります。NACS-JのHPで確認ください。

久しぶりの高知県での開催になります。周りの方へも働きかけて多くの方が受講されるようお願いいたします。

わたしのフィールドノート 根っこを見れば

田城 光子

はじめに、ここで「根っこ」と呼ぶものは必ずしも植物学的な「根」を意味するものばかりではないことをおことわりしておく。地下部にあつて、普段はあまり見ることが無いが、それは植物ごとに違つていて、よく見ると形状の違いだけでなく、その植物の生き方も分かつてくる。身近な植物から気づいたことをメモしてみた。

我が家の自家菜園は手入れが行き届かないので、年中草だらけである。春はノビル、ナスナ、カラスノエンドブなど、夏になるとマルバツユクサが猛威をふるう。収穫できる野菜はわずか、でも野草料理が好きなので雑草も多いに利用する。夏場の作業は重労働で辛い、ある時、たんなる除草作業ではなく観察の良い機会だと思ふことにして草取りをしたら、ずいぶん作業が楽になった。普段は地上部の花や果実に注目することが多いが、この時は根こそぎ抜くので地下に埋もれていた部分までよく見ることができる。

カラスノエンドウの根には、マメ科に特徴的な根粒がたくさんついている。根粒菌が寄生してできたもので、これに空気中の窒素を取り込み蓄える。土に敷き込めば肥料になる。レンゲも同じで、昔は緑肥としてどこの田んぼにもレンゲが植えられていたが、化学肥料に一番を奪われて最近ではレンゲの田んぼがずいぶん少なくなった。

マルバツユクサは、地上にはツユクサより小さな花を咲かせるが、地下にも白い閉鎖化を付ける。名まえは^{はかな}儂げだが、どうして、なかなかしたたかな植物である。抜いて放置しておいてもすぐに生き返る。地上と地下の両方に種子ができれば、どっさり芽も出る。夏場はひたすらマルバツユクサとの闘いが続く。マルバツユクサに負けずとも劣らない勢いなのがヤブカラシである。芽が出るたびに引き抜いたり刈ったりするが、まるでぐらたたきのようにあちこちから新しい芽を出す。畑を耕して太い紐のようなものが這いまわつていふことに気がついた。それがヤブカラシの根茎だった。引き抜いても途中で切れて、切れ端が残ったところから芽を出していた。ヤブカラシとは藪を枯らすほど繁殖力が強い事、別名のピンボウカズラは、これが生えている家は手入れの悪い貧しい家という意味らしい。まさに我が家はその名のとおり貧乏屋敷である。ヤブカラシにはなかなか果実がみのらず種子ができないが、この太い紐を土中に張り巡らして増えていたのだった。畑仕事をしながら、逞しい生き方を学んだ。

初めて見るものだったが、根っこを見ることで同定が比較的容易だった植物がある。高知県ではすでに絶滅したと考えられていたヒメキセワタである。花期は短く、わずかに残っていた花がてがかりにはなつたが、地中から出てきた白くて小さな丸い球が決め手になった。花が終わると地上部はすぐ枯れてしまう。夏の間、地下から地表にまで白い球がゴロゴロころがったままで見つかった。この状態でどうやら夏眠しているらしい。秋になるとこの球茎

からランナーを出し、その先に葉をつけて年を越し、春に開花する。

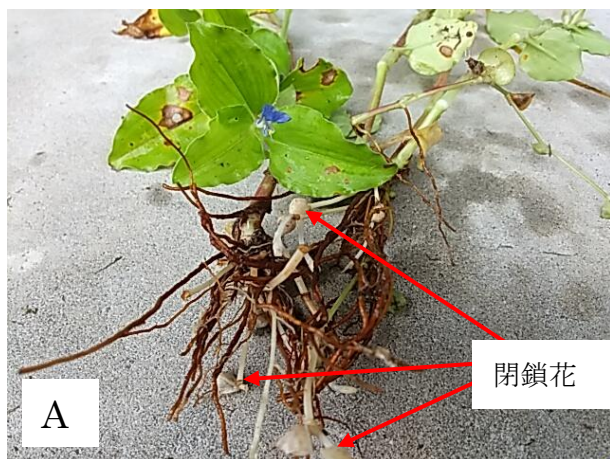
根っこからその植物の年齢がわかるものもある。ナベワリの仲間は、太い横に延びる地下茎があり、左右に紐のような根をだしている。地下茎にはくびれができて瘤のようになっている。瘤は一年ごとにできるようだ。標本採集した個体は、瘤の数から12歳だと判断した。

根の大きさと強さから、たいへんな悪者扱いされているものもある。イギリスではイタドリの栽培が法律で禁止され、生育している土地の価格は暴落するそうだ。コンクリート壁を破ったり、建物に被害がおよぶからだという。高知県にはイタドリはなくてはならない山菜なので、そのようなことには考えがおよばなかったが、確かに、以前荒地の開墾をした場所で掘り出されたイタドリの根っこは、重機がなければどうしようもないほど大きなものだった。江戸時代にイタドリをヨーロッパに持ち帰ったシーボルトは、まさかこんなことになるとは夢にも思わなかっただろう。

わたしには根っこについて知らないことが多すぎる。微生物や菌類など、広く深い世界への入り口だと考えると、なんだかわくわくする。これからはもっと根っこの部分をよく見ていきたい。

図 植物の地下部のいろいろ

A: マルバツユクサ B: ヒメキシセワタ C: ナベワリ



気ままなカメラ日記

久川 信子

今年は、夏鳥の飛来が多く種で早かった印象でした。鳥友の多くが例年より数日早く今季初見を観測されました。実際、私も毎年4月10日前後に見るノビタキを3月29日に観察。

さて、前はカニ色な内容でしたが今回はライフワークの鳥に戻ります。

あ、そうそう、暑い夏はカニの時期。今年も見に行こう(*´艸`)



2024年4月2日

東部では早朝に強風が吹きました。これが滅多にない幸運な日となりました。渡りの途中の小鳥たちが海のそばの水たまりにやって来るのです。ツバメが50羽ほど空を舞う下、コチドリから始まり入れ替わり立ち代わりやって来ます。その中でも、ムネアカタヒバリとこの1枚目の写真のコホオアカは旅鳥でライフターでした。そして2枚目のカシラダカ（夏羽）も嬉しかったです。その周りには、南方系の昆虫もいましたが、1時間もしたら嘘のようにすべていなくなりいつもの河口に。旅の疲れを癒していたのでしょね。



2024年4月6日

この写真ではわかりにくいのですが、旅するカラス「ミヤマガラス」で、嘴が白いのが特徴です。越冬で日本にやって来て春になると中国北部などに帰って行きます。高知県東部は、この渡りのルート上にあつたということです。ちゃんといつも講師でお世話になっている濱田哲暁氏にも見ていただきました。



「トルネードを描いていたでしよう？」と聞かれました。はい！圧巻のトルネードの光景を目にしました！この鳥はムクドリに負けない大群を作って集団行動。色は黒でもド派手な生き方です(笑)

今回は、東部の渡り情報でした。

タンポポ調査 2025 予備調査(2014年調査)の結果報告

2024年2月1日から2025年5月31日にかけて行われる「タンポポ調査 2025」の2024年の調査（予備調査）が5月末で終了しました。指導員連絡会においても多数の会員の方に参加いただきましたので、予備調査の実績・成果について、その概要を報告します。

【参加者】

2024年の調査には、690名の参加者がありました。参加者の属性を見てみると、小・中・高校生60%、牧野植物園調査ボランティア登録者20%、一般参加者20%でした。私立の中学校、県立の高等学校で、学年単位で調査に参加された学校があり、小・中・高校生の比率が高くなっています。

【集まったサンプル数】

690名の方から集まったサンプルは4920サンプル（有効サンプル）で、この数は過去調査の初年次（2009年・2014年・2019年）と比べて最も多いサンプル数でした。

【調査地点】

調査地点は1678メッシュで、これは2019–20年調査の約60%相当するメッシュ数です。調査済み・未調査メッシュを地域別に見た場合、未調査メッシュがまとまって存在する地域もありました。2025年調査において未調査とならないよう、留意する必要があります。

【確認された種類とその比率】

予備調査で確認されたのは、これまでの調査において県内で確認されていた13種類（在来総苞型外来種を含む）で、新たな種は確認されませんでした。

種類ごとにサンプル数を見ると、最も多いのがシロバナタンポポ1608サンプル(32.7%)、セイヨウタンポポ1461サンプル(29.9%)、次いでセイヨウタンポポ型・アカミタンポポ型・両種の不明型を含めた在来総苞型外来種で597サンプル(12.1%)でした。在来総苞型外来種については、第1回調査（2009–2010年）では113サンプル（全サンプル占める割合は1.9%）でしたので、急激に分布域を広げ、個体数を増やしていると考えられます。筆者の観察でも、分布域の拡大とともに、形態も多様で、在来倍数体と見間違ふ恐れがあり、種の同定にあたってはより慎重な観察が求められると考えます。

【調査者と調査市町村・採集サンプル】

690人の調査者がどのような形で4920サンプルを採集したかを見るために、調査者ごとの採集サンプル数を見ました。採集サンプルが1個の方は301名、2–4個の方が204名、合計505名で全体の73%を占めていました。一方、一人で100個以上のサンプルを採集された方は8名でした。また、調査者が調査した市町村数を見てみると、一つの市町村のみの方が588人で全体の85%を占めており、逆に5市町村以上を調査した方が25名いました。

タンポポ調査は身の回りで数個のサンプルを採集された数多くの方や広範囲を調査され100個を超えるサンプルを採集された方など、幅広い参加者によって成果が得られていることがよくわかります。

以上が2024年調査（予備調査）のアウトラインです。その他調査のトピックスとしては仁淀川町上名野川で新たにキビシロタンポポが発見されたことがあります。

新産地発見の知らせを受けて筆者も調査に出向きましたが、上名野川の奥谷集落の3か所で頭花を付けたもの13株を確認できました。生育環境は町道の路肩、人家への小径、畑、空き地などで、標高は630-700mの範囲でした。現地調査の際には3か所の共通性に気が付かなかったのですが、帰ってきて古い地図（1/5万）を見ると、車道が開設される前は集落内あるいは他の集落とを結ぶ主要な道路だったと思われる場所で、かつては、適切な維持管理がされており、タンポポの生育に丁度の環境だったと考えられます。

予備調査としてはおおむね順調に推移したのではないかと考えます。2025年2月1日からは本調査が始まります。本調査ではシロバナタンポポ以外の在来種について、より緻密な調査計画の下に、抜かりの無い調査が必要です。来年の調査にも、積極的に参加くださるようお願いいたします。（文責 坂本彰）

【写真資料】

在来総苞型外来種の頭花（総苞の形態）いろいろ



仁淀川町奥名野川のキビシロタンポポ（右）

2024年9月以降の観察会日程

越知町横倉山 自然観察指導員鳥取連絡会との交流観察会

日時 9月1日 9時に横倉山第3駐車場集合
第3駐車場から杉原神社、横倉宮、ハカだめし方面を歩きます
講師 細川公子さん
会員限定の観察会です。
参加申込は8月25日までに事務局まで

棚田の植物観察会

日時 9月28日(土曜日) 午前9時から12時(予定)
場所 高知市久礼野 屋敷前からクラウ周辺
午前9時に屋敷前(久礼野団地入口・久礼野茶房西200m)集合
講師 細川公子さん
持ってくるもの 長靴(田んぼの周りを歩きますので長靴が便利です)
筆記用具 あれば図鑑やルーペ
募集定員 20名(募集開始9月1日 締切り9月25日 定員になり次第締め切ります)
その他 雨天中止です

横倉山タカの渡り探鳥会

日時 9月29日(日曜日) 9時から15時
開催時間内の都合の良い時間帯においでください
場所 越知町横倉山「織田公園展望台」※トイレは近くにありません
持ってくるもの 帽子、筆記用具、あれば双眼鏡、図鑑
(長時間観察される方は、飲み物や昼食)
講師 細川公子さんおよび日本野鳥の会高知支部の方
※参加希望の方は9月25日までに細川公子副会長に連絡の上、参加ください。
細川さんの連絡先 携帯電話 090-3780-5540 E-mail czt01054@nifty.com

秋の草原の植物観察会

日時 2024年9月29日(日曜日) 午前9時から12時(予定)
場所 高知市皿ヶ峰周辺 9時に筆山第2駐車場(皿ヶ峰入口)に集合
講師 石川慎吾さん(高知大学名誉教授)
定員 20名(募集開始9月1日 締切り9月25日 定員になり次第締め切ります)
持ってくるもの メモ用具 あれば図鑑
その他 参加費無料 雨天中止です

蛇紋岩地の植物観察会

日時 11月23日(土曜日・勤労感謝の日) 午前9時から12時(予定)

場所 高知市蓮台周辺

(集合場所 午前9時に高知市福井町 鴻ノ森墓地公園第3駐車場に集合

集合の後、参加者の車に乗り合わせて観察場所近くに移動します。)

講師 細川公子さん(土佐植物研究会)

持ってくるもの 筆記用具 あればルーペ 植物図鑑

定員 20名(募集開始10月25日 締め切り11月20日 定員になり次第締め切ります)

その他 雨天中止です

参加希望者は事前の申し込みをお願いいたします。

タカの渡り探鳥会以外の参加申込先は次のとおりです。

申込先 高知県自然観察指導員連絡会 坂本彰

TEL&FAX088-850-0102 Mail s-akira@mvd.biglobe.ne.jp

「ネイチャー高知」高知県自然観察指導員連絡会会報

No. 63 2024年7月31日発行

事務局 780-8075

高知市朝倉南町3-51-1 坂本彰 方

TEL&FAX 088-850-0102

E-Mail s-akira@mvd.biglobe.ne.jp